

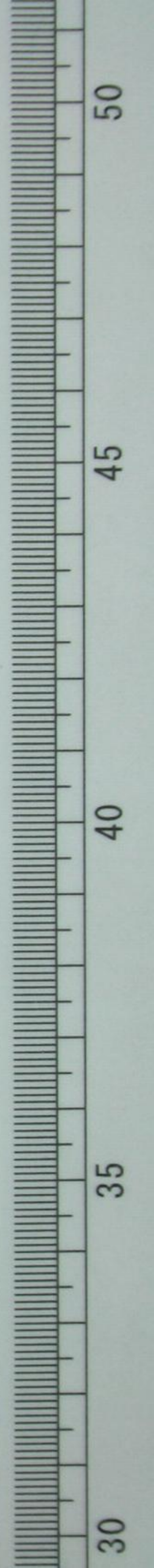
小幡廬日記  
昭和四年  
十二月  
長谷川峰  
昭和五年

特別

14

1919

608









張替り、波津倉あり。ピアノを現す。五日  
比谷園書院：到り、比園法入問答。手松  
木記多本：對する件：つぎ内瀬す。和回  
大田金洋林坊。谷坊井村。時未分論。然  
澤更に到り敷す。

四日

二、四、政上公志。例の注射を交へ、波津の事  
り。ピアノを終り、十時出遊。山本書院、三十四細  
川、二十五田五十八。抄、文行を、回者を、難公其

榛原製

空の内くち。田。松せの。吹火。月生。巻。傾。七。均  
き。難。公。と。業。し。時。を。移。す。

五日

時、林。癸。未。夫。再。訪。園。書。院。堀。内。江。二。つ。ぎ。内  
議。九。日。抄。本。長。一。と。今。元。と。説。き。実。業。の。世。果。抄。の。抄  
尾。敬。二。つ。み。坊。三。菱。抄。の。二。つ。手。形。抄。の。二。つ。き。未。出  
大。谷。崎。元。と。と。を。狀。渡。河。不。二。家。に。托。の。二。松。村。海  
三。の。嘴。と。卒。し。敬。字。寫。稿。本。自。脚。翰。の。巻。尾。に  
所。感。を。稱。す。エ。ア。イ。レ。エ。ン。シ。一。協。合。と。と。園。者。を











十日

時ニ其妻の約手ヲ切取つとて切取の約  
手兼ニ刻印料金を為持せし九時ニ出  
故都ニ到り、夕幼佛を祀念をひくると幼  
死ふ一刻ノ余の公を千八百七十四年(即チ)  
與金七千二百三十七圓と受り、上野金千  
六万圓佛海、南條守一、先日の御會  
員と曰言の者をも迎へて、平野武美、大  
印創今此の計弄とを言ひ、未だ吉田春太  
郎祖母病死の時も香典と迎へ、三條海

榎原製

濱しき速記の稿を新西しき庭うへ、井  
未夫しき未也、又和田純らしき未、阿、秋未也  
あ

十一日

而雷ニ破く海濱の原稿を授合し、七部送十  
時の印創今此の重役今に候、本幼死  
南八公と決す、未をり不況也、大隈別邸  
歳暮者をも迎へ、坂口蹴吉らと村上の鮎  
を迎へ、来る、楠瀬、何く表す、代十圓郵



砂の堆積とて同定舎、高の附を考物列る。其  
の桂次りしとて堀引も又り来る。関尾らる所  
り未出文のちりて三十四拂、七二間二也を將  
入内子、四角同文付、木突未夫とて未出、踏見  
祐輔の六遊、母とて漢也。

十二日

時、龍泉と兼夫、彦瀬の吹とて未出、坪井長四  
郎、中野、同付早大園寺、到り、東都の  
所、和出とて近へとて本城谷とて、昨日つる舎の園寺

榎原製

彼地舎、現く舎、このまにゆ城す、出の部と列  
り、堂具、全をも内決す、ら所、其後、渡場、のり  
、付未流、山本儀、とらり物、を那り来る、河津  
らと物、を那り、と時、は所、存、是と、教、兼、本  
あ、に、和、一、七、地、の、の、あ、

十三日

時、野の村、我三、母、死、云、二、付、吊、状、を、是、為、夫、血、腸  
守、し、助、の、止、函、種、の、授、と、新、築、の、紀、念、帖、を、寄  
せ、来、り、朝、經、の、金、英、鎮、と、未、出、雜、録、を、寄、り



東坂上弘毅の来り、村上、江又、信隆、三尾、朝連、  
和氣、七、八、九、野村、田、菜と贈り来り、午後地震  
あり、三時大橋、回、ち、錦、と、回、ち、坂、堀、合、の、理  
事、人、等、あり、出席、し、京、都、の、新、村、太、吉、大、の、姉、妹  
和、田、其、他、皆、ま、参、集、余、主、し、し、七、纏、め、方、と、幹、旋  
徳、分、と、無、動、の、疑、義、と、執、り、物、と、大、橋、堀、の  
出席、を、得、て、買、す、所、あり、徳、川、家、の、定、り、附、を  
二、懸、も、疑、義、あり、と、大、橋、の、意見、を、徴、し、十  
時、散、会、本、間、久、雄、近、若、滞、政、印、象、記、を  
贈、り、来、り、

榎原製

十四。

亦、分、相、續、後、徳、川、二、尾、吉、山、大、隈、と、集、集、等、に  
為、持、考、き、先、方、と、し、錦、崎、と、赤、松、一、若、西、田  
帯、心、を、贈、り、来、り、東、美、江、米、部、と、利、り、香  
林、の、聯、合、と、美、立、合、と、四、五、の、回、者、を、贈、り、出  
政、部、と、あ、り、賞、典、を、行、い、と、午、時、物、集、も、早  
大、と、し、集、集、等、と、し、と、金、る、由、贈、り、来、り、と、十、二  
の、回、者、等、に、皆、出席、し、の、由、知、り、又、利、り、二、時、散  
集、り、も、持、考、し、物、を、贈、り、二、時、散、徒、歩、し、と  
御、集、集、と、飲、も、物、と、し、と、金、る、由、内、外、に、交、付、し、去



田舎のうらまへ未だ、新石の燗と餅米とをうま  
く、四季東温暖冬に似たり、草木茂る時。

十五日

日

小雨、散葉先の付日、おを踏ひ、浅茶観  
房を寒く、重田に飲し、杉井座の映畫をえり  
ゆへ、不在甲、杉村通三と、蟹と、金葉を  
贈り来り、丹吾原平より来出。

十二日

榎原製

雨本万久雄、函志を分す、山田内尾  
行、丹吾原平へ、換引代十五圓五匁  
為送、同家存の之友名、函志を心、改上、以爲  
一葉、寄る儀、二方、同贈る、昨日、家存主人、函  
未訪り、縁敷あり、午後、友人の病、を、應し、教  
紙揮毫、四時、陶器、亭、一、橋、時、代、大  
字、の、同、家、存、を、つ、ま、く、余、軒、事、と、し、て  
幹、庭、亡、友、四、十、數、氏、の、重、任、に、寄、集、を  
執、一、祭、具、と、行、ふ、未、今、若、錫、食、互、有  
田、早、若、田、中、飯、音、揚、石、波、あ、一、原、田、鎮



沓山田嶺山徳方より土方夢う田中平根  
岸練次郎及び余翁田中三吉雁次郎  
十三人也。談笑例の如く比々辭少を敷す

十七日

雨大石垣田余の地筆の巻物一束を持ち来  
る。係名長を了る。功過の圖書故郷の地  
今の住こを余の語る。宗家之人天の才功  
改口献吉母も功。懐川集巻をも貯る。浄  
会寺檀中徳代の決湖者宗利達。毎の温

榎原製

暖氣土侯妻微、去原馬の、去田春を母よ  
の魁を貯る。未の、杉村湯三子福、後敷葉  
一二書店と云ふ。圖書を睡して物する。行む宗  
八と、輕急利素、今用て供七、池に放つ

十八日

晴、今朝九時光をは、少く宗家と功  
ひ、歎、晴す、葉あり、空葉持、多し、久  
江流、一、高、向、只、敬、十、自、訪、春、城、漫  
筆、物、多、を、一、冊、出、束、出、段、局、補



印す。其人十八家。池養方とてしるす。出  
版部と申者なり。物人佐太郎と投す。其  
行を嘆し。三時台と書す。取て成る。三時流  
格の今成。これし。年未分決。集其他を成  
し。かくる。

十九日

雨出。版部の金助。可然。このとき。武田。日本  
未活。家庭と母と。起す。なる。好を。海。次  
社。の。物人。佐太郎。と。書す。年。未。分。決。印。刷。局。

榎原製

社。の。物人。佐太郎。と。書す。年。未。分。決。印。刷。局。  
為。す。出。版。部。の。金。助。と。然。る。時。武。田。日。本。  
未。活。家。庭。と。母。と。起。す。なる。好。を。海。次。  
社。の。物。人。佐。太郎。と。書。す。年。未。分。決。印。刷。局。

二十日

雨。五。時。前。の。頃。の。雨。の。道。暖。を。感。じ。た。り。こ。の。時。を  
急。ぎ。寒。氣。を。増。し。と。い。ひ。終。り。お。り。と。殊。々。寒。氣。  
甚。しく。朝。未。迄。年。未。分。決。の。集。其。他。を。成。  
す。午。の。道。燈。を。掛。し。死。な。し。午。後。五。時。



五輪光と信を深き日松林座の映畫を見し  
ゆ途田原局に飯を酒を茶とて種々飲み宴を後  
す。今夜ハ一とて未出。正公院の研究と題  
す。自著と題す。是(天)の故なり。未だ未だ  
也。而物も入る。當りす。

念一日

晴。夜半と筆を辛酉迄行社を。夜半和歌院の  
を得て更生を誓ひ。未だ。例年の如く花酒を  
賺して親戚に贈る。今夜も。今夜も。今夜も。

正公院の研究と題す。午後一時早大の維持費  
金に悩む大隈家。約付金残額五十萬圓  
を日法生金信託會社に。買受けし。是  
等の件。其地を協定す。帰宅後。湯外  
浴。台北。台湾。重箱。木。カン。家。天。の。り。の。知  
む。初。日。著。吉。楠。瀨。拘。も。地。筆。を。焼。う  
る。一。新。し。湖。島。別。の。風。新。漸。や。く。あ。り。い。

念二日

晴。今夜ハ一に海を。見る。風。新。漸。や。く。あ。り。い。



才辨を以て臥し、正会院研究を後必千  
後にも、同窓会に託せん。主も次の物に  
出方等、方、為抄考、今夜久次男、  
懐三、を、浅学、を、振く、約、  
が、凡、の、為、あ、の、真、白、興、二、不、山、三、八  
と、し、梨、果、を、贈、り、来、り、昆、田、方、ホ、ン、カ、ン、一、  
為、抄、考、を、寄、り、来、り、昆、田、方、ホ、ン、カ、ン、一、  
亦、あ、い、え、外、三、三、と、物、を、贈、り、来、り、昆、田、方、  
烟、を、成、し、や、病、の、輕、快、を、云、ふ、

榎原製

廿三日

昨、十時の海印刷合社の送金を今代梅上といふ  
本約部、八分と決り、十一時、余、余、の、三、三、  
、寄、り、其、金、を、千、八、百、七、十、五、圓、部、由、六、百、二、十、五、圓、  
各、義、の、株、部、由、五、十、圓、也、以、上、弘、花、也、く、注、射  
と、施、り、各、所、に、寄、り、寄、り、寄、り、寄、り、寄、り、寄、り、  
子、を、し、  
の、わ、れ、二、不、ん、か、ん、を、し、  
と、し、  
る、に、  
る、に、



内由少の交付、京都谷村一太らへも余の書も  
也、中子つとまの文の湖也、凡部は讀んを氣に  
支カせん也。

二十四

市咳嗽烈しく、極く、相々、痰所に入  
枕を、高めの、胸部、温布を、施し、漸やく、咳嗽、和  
く、無聊を、感する、以て、西部、我、海、果、地、を  
し、も、後、に、丹、去、原、平、一、日、此、日、本、了、す、と、し、  
歳、若、者、も、を、字、の、を、年、の、午、辰、三、時、休、温、と

榎原製

駢字三十一、九分也、今、の、酒、と、喫、烟、を、絶、ち、  
よ、疾、者、咳、る、前、回、診、問、院、の、医、生、診、断、は、  
劉、生、の、診、断、に、入、津、達、友、と、し、余、の、病、も、  
等、と、病、一、謝、書、刊、す。

二十五日

大正天皇祭

時、復、知、念、を、し、近、刻、二、程、能、事、を、多、く、春、休、後、  
華、と、井、上、辰、中、の、あ、の、長、次、中、高、橋、義、彦、に、郵、  
送、し、毎、五、日、元、の、交、付、森、崎、美、村、中、の、文、部、  
會、刊、行、書、ハ、程、紀、本、終、日、床、上、に、西、部、我、り、



異物ありしと後、伊藤利吉田東洋見地  
物と定まり、奥田空倉より酒刺来、関古午真  
崎桂次郎より来書、又刻六吹男来、物と贈り  
直書。

二十七日

晴、夕朝池の凍結、昂々たる田を、文三に三十四  
算、算りて七を、白木倉、波動、るハ十三、四  
内、文三、妻、主、皆、金、而、田、返、得、下、女、給、料  
ふる田内子に交付、は、記、志、を、翻、讀、因、者

榎原製

彼城、さし、来、前、後、其、校、の、田、中、山、一、り、余、の、押  
是、と、と、の、事、。、お、の、り、睡、え、す、酒、杯、を、飲  
け、床、上、う、じ、才、に、て、大、ぬ、文、樂、の、壽、三、書、の、文  
を、聴、く、大、端、古、鞆、の、形、を、久、し、振、り、寄、り、て  
夜、文、樂、復、興、初、也

二十七日

晴、家用、山、方、田、内、子、に、交、付、井、上、辰、太、郎、に、と  
「英、蘭、船、の、と、金、形、市、師」と、定、り、を、事、。、加、藤、印、良  
ら、池、原、の、御、出、利、。、高、須、甚、次、郎、ら、其、甚、者、力、池







稲めをち物の清掃、浜村口より田山本十七  
田細川十四也。之賦を訪ふを物くる、浅沼宮  
去給、外万田内子、交は、朝来人を傳へて  
跡をつく、唐井一とて来也、後、朝来をの、長生  
秘術とて、丹共、原平、高流、去とて来也、  
田中白ら、余の、淺茅、六、寄、短、こ、き、湖、電、利、了、海  
瑛、北、婦、八、ッ、ラ、元、も、し、原、物、物、二十、四、也、と、し、た、る、

三十日

西村徳大らとて来也、中田湯平、来、訪、物

榛原製

を物つとて、抽、付、し、も、考、を、後、お、午後、二十七、日  
三分の、扱、あり、復、わ、こ、入、の、三、木、武、去、と、し、鴨  
を、物、り、来、と、て、た、こ、の、今、改、冊、上、身、珍、注、賦、を、受、く  
石、塚、三、郎、の、お、訪、解、書、と、物、と、る、

大暇の

雨、朝、来、南、郷、の、東、山、池、地、賦、淺、堀、後、去、原、と、し、  
納、豆、を、考、を、物、り、来、と、し、又、管、田、直、流、と、し、後、物  
利、平、高、田、平、茶、り、利、崎、堀、と、し、物、状、と、し、  
又、高、原、流、去、と、し、新、島、田、の、鎌、米、と、し、



若しふんき 祝賀又もせよ。高橋義彦君も  
余の漢字に海色刺す。午後の無熱一  
年の終りを告ぐる日るんばとを祝杯を仰ぐ  
十二時三十分日元。新年のあまをいそいで  
解あて天のり。刺す。七十の算のりもいそいで、  
例に依り一年の概略を左に掲ぐ。

昭和四年概要

例に依り日誌の末に一年の大要を録す。左の如  
し。

一月初頭熱海に遊び内ふ久寛の別荘を訪ふ  
又海内遊遊を訪ふ。其の新築の塔形道  
遥書屋を見、由東後記を記し早稲田  
学報に送る。

余の遺稿を遺稿のり敬報書下の日記文  
治り傳一月廿一日の忌辰に成る  
洋法社の雑誌の囀を成し回顧録一篇



を定む

旅稿、朝日しの囀に应じ随筆「枕」一篇を  
寄す

早稲田の校祝改正ニ面創生じ二月二日大隈  
侯と星宮侯参り合議解決をもつと云い  
大隈の校友不友善きもの中冬席一節  
ニ要領を得る能はず、田舎ももとの教員  
間維持員有志と志はく今令後援  
を解く事ニ努む

余本年古稀の齡ニ達し三月二日

榎原製

十七日余の誕辰を卜し門下生格の友人  
余を紅葉館に迎へて祝賀の筈を以て  
還暦の時と因じ十八名未分級名紙後  
より上京、親戚、其々、余紀念に杜  
毫を花交に送り

梅瀬日年、余の古稀を祝して自刻の  
印章を贈ふ、本年の揮毫も書きて此  
印を用ひ

箱誌「美の囀」の囀に应じ一稿を定む  
文部書院の前送、夏雲主人もこのあり



久江成一吉田秀人を知り余が責任を辭す  
案をもととし、余為め五千圓を出資し  
行説を理す

海法俱樂部の場を應じ、卷頭言を定めて  
帝國通信社破綻未拂込株の拂込を促し  
し、事々葛藤を生ず

報社社の地方版に余が古年時代の  
不依を掲載す一内なる暇に海  
日清印刷會社の役員との相根に遊び  
一泊してゆく

稜原製

三月末日、高田貞家の請に依り高田と共に  
し、市内を執り海に訪ひ三友邸の宅に渡  
談合をひらき、其の筆記東京日日に新  
少の廿日河津に載せらる。後、海法を補足  
し、海法漫談の書冊出版せる

日清生命保險會社の社長更任の(き)新社  
長として日清印刷會社の事務高田秀人を型  
す、其の本意をうらみ、其の囁に應ずること  
とらう、平中、登美、友と後任事務を奉ぐ  
改口丑年の嗣子丑年紀念録と出版せんと



すゝこつき追憶記を定らす

高田新より一萬五千冊紀念の定め物を需  
めんと至社の時投獄の関し裁判書の公  
文も定めて共しを思ふ批に供す

四月十日大隈令彼に濱地後援令の主観に  
て坪内博士朗後令をいづく余令地を主宰  
す

出版部員と房州遊遊令を併し外房州  
を一泊一泊と均しく遊遊つむけと房州に  
赴くはこゝか初めをうらう

榎原製

吉山令彼に田中光顯伯切徳志彰令  
あり余七前地人より伯の執筆につき一冊の  
漢訳を考す且つ二三早稲田の司人伯を  
星ヶ子家奉養と扱く次日伯謝絶すと余  
の家を訪ひ来る

雜誌期に七月號と逸筆一冊を定らす  
東京の書肆便利を田中徳三より本邦  
書肆の圓影本刊行令を興つすこつき  
余その顧問を請し関係の司の事を星  
ヶ子家奉養と扱ふの意見と陳ぶ



早大出版部上半季不況配当一割二分  
減す前季の二割よりし

戒後五十名浄念寺住職の懸給糾察  
家と協議、変理の考の六月止る情有芝  
田三三口滞左輪旋する所あり、新沼、田  
川、の京

口法印創令此上半季不況幸ふとて一  
割の配当を下さり  
天業氏時報の嘱に應じ田中智名の日蓮傳  
の評論と定りす六田氏宛の嘱に應じこ

榎原製

友内田為庵尾に就ての二つ篇を定めす

七月十四日新沼宛の校友大令に臨む令坊  
栢崎、新沼と回りの相京、

東京の成級の教科書に余が随筆二種  
より二篇の文を採録せんことを希ふ候す

大阪の書肆内田為庵尾の記念録を出せん  
と余の寄附を乞ふ乃ち一行を投す

本年の夏炎暑殊に甚しく日々日暮をせ  
るに困りて七月廿五日の随筆二種を著  
け始め毎日日課として其の執筆に四



十餘のりしと稱成り、訂正増補の考の爲は  
十數のりも費し十月十九日脱稿印刷、四  
し年末出版を期す、今次の隨筆春城  
漫筆と署す、枚數四万六千頁也  
十月九日内子を伴めて高麗山詣り考の東京  
を起す、翌朝大坂着候、而して登山と  
便し、一日大坂と清在和文堂のあり、  
七市巾着、六甲の構、別荘に於て、  
日事をもはめ、登山清浄心院に投宿、  
平家の位牌、脱漏の法名を進録し

榎原製

和史在一の夫婦の爲位牌を必し供奉と  
考み一泊の上下山、奈良の法隆寺春日  
神社等も参詣し、京都に入、十日泊毛  
す

十月二十日早大の記念日に、高田城由余は  
田か古稀の幸し、祝賀会あり、大隈海  
堂、式を行ひ、大隈合領の庭園、園お分  
をい、遊る、盛人、記念品代り、七金巻  
千山を受く、一半と高麗のり、考り、文七  
一半と園考り、文つ



在朝鮮未だの一人加蓋知良(刀辨)余の  
筆の音後あつくとを自心の左印百顆  
と其印譜を字のせよる、亡友坂口五峯  
か余に字のせよる血鶴石歌を合刻し  
しより、余其の意を表に代印を家珍と  
す

高田早大徳古稀紀念大子觀久基  
皇哀文集につき此の四の字の附を中込  
あ、  
大隈熊子余の古稀を祝する為の来訪記

榎原製

其并に、經子代る四を贈る  
失業對策長篇文の場合の二エー大に  
字のす

坂口五峯の紀念録「五峯の影」上版  
報知社と文の場合「聯合主催の大隈先夫  
を中心として」の遺稿を大隈分館にひらき  
余も歸入して遺稿を為す「速」に報知社  
に連載せよ、本報の海を大隈家不  
花の考案を陳列し「公衆の境」供す  
三城異時二店に江美の文の遺稿陳列会



と念ひせし語流今も僅す余此一海の遠境候  
を考す。

三村竹海の家為の印と見んことを欲し訪ひ来  
り余茶室に誘ひ終日印を弄す

文藝春秋の新年號に「土」と題する隨筆  
一篇を寄す

福富の「新」の新年號に「酒と人」と題  
する隨筆を寄す

圖書館事業研究會の雑誌に「田舎者  
の形勢」と題する一稿を寄す

榎原製

出版部上半幼らんと更なる振出す僅かに一  
割の配当を考す

日清印刷會社の日柳不況を僅かに八分  
の配当を考す

十二月中読春城漫筆を志す未成。  
早大に於て五十年史を編纂するの奉

あり余其の主任に推さる  
十二月十日余辭すも一橋大の時代の

同窓會を物とす亭に開き亡友三十數名  
の宴を祝す



本年日々秋なる旋華、牛頭木屑録九冊成る

圖書協会内にて紛議起り余主として輯旋之んを解くこととすつとむ、

婦人倶楽部の爲に乞し、家庭と母 兼て是を一稿を投す、

本年此方らと拙毫を需の来つこの殊多く二三百枚に及ぶ

本年其定集の圖書和洋社共合して二百冊三百枚十冊に及ぶ一日平均一冊の収獲、洋社本の

半はは寄附と云々言ふも也書物を愛仰し  
て一旦空の府とすつし五六十函今亦満つ  
玩具并に小品を陳列架に置きしるハ昭和  
二年の末より、西の好むに觸れし人  
多しもの漸やく多く、今七の巻に達し架  
中友人と路地と存せし  
亡弟未亡人志保死す







と猶ひ余の酒飲し七時。氣及支七と云物  
程折合ひ此んど用古す心打臥す。出包柳子  
と物と物とある。石塚と申名姉妹物を推し  
乙年筈にす。

二日

朝未開と云て雑記を著す。午時迄七時迄亦  
未開の田原を酒飲し七時未開即三上於其  
まのハ況を後る趣に入。二三筈支列の亦  
及ハ献立も酒、木林陣古の筈長久し。

榛原製

三日

雨、余が空の稿をぬりて福の事。初年  
別達を記す。神田下谷の書物と物  
ひ、物を携へ物を贈ひ。初年三四上於其  
其のハ況を後る趣に入。二三筈支列の亦

四日

朝未開の稿を著し。又梅園日記を讀む。午  
後大吹の男利之置酒飲。修夜に今去る。ハ  
す。す。す。と贈る。



五〇

時朝子登船と著す、八部漸く進、以故其  
校司、其の爲め押進を乞と母を神田の  
者店と存せ、三三の回とを請ひ、此處に板  
兼升、其と致しとゆふ、其の病以後初世  
流す、伴純もも来出、高家とて十分家の  
ある所に、

六一〇

時朝来遊、其を著す、ゆ子於改屋とて地方玩

榎原製

其の馬教、其を請ひ来、乃ち改列、桐、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

七〇

時家礼と存し、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



此の物も、元カ、三四の巻来り

八日

頃、三張共、既、元カ、過日のおま、少人、廿七年、心  
記念、祭の、今、在、二冊、利、未、捧、亦、七、未、捧、り、皆、熱、河  
、此、く、二、少、人、に、贈、ら、へ、き、物、を、贈、ら、九、日、ル、に、行、き、す  
と、未、だ、二、日、不、二、三、の、玩、り、を、贈、ら、星、々、の、茶  
寮、と、し、自、座、の、聖、護、院、か、ら、利、来、此、日、宋、宣  
婦、人、騎、馬、の、像、を、贈、ら、新、野、の、四、の、名、為、次、在、世  
流、を、利、来、す、餅、米、利、来、(金、ろ、四、内、子、に、交、付、

榎原製

尾崎おまの記念海流を改む

九日

頃、凡、相、来、既、元、を、奉、り、海、の、久、敷、山、の、沙、心  
或、の、坊、東、部、八、村、河、外、と、鮮、人、車、善、長、壽、金  
昌、俊、未、流、出、既、部、次、時、子、山、寺、に、り、馬、坊  
カ、有、り、余、の、押、立、を、も、と、り、坊、の、通、り、と、  
此、状、を、な、り、す、午、後、二、三、紙、揮、毫、信、が、出、流、  
一、三、の、馬、書、を、贈、ら、て、物、の、深、夜、腫、物、境、心、  
腫、を、お、か、す、和、の、為、と、し、早、大、本、曲、亭、平、院、者



解題と一巻の末日。丹兵、如前祭禮を述ぶ。

十日

前報未だ解と著す。高田と致すと未出、宇尾  
中蔵子持、去つて後自郎平と以つて余を神  
宗改の旗亭と仰ふ所、九紙あり、余の漫筆、  
對する批評は乃ち又、出づ、高田義三の  
の批判、河津安徳と未出、先と付を涉  
る。松井、在の跋を元、甚兵衛に致し  
ゆ。

榑原

十一日

此の熱海へ赴く。つぎ朝未其の手配を為す。  
後編初巻、尾佐野復し近刊の漫筆を  
寄送し、熱海へのつぎ高田と致す者物を尋す。  
又林葵未久と云状を尋す。榑原義三の跋  
ついで高田、杉原親之助の紀念會を辨くとす  
き其の陣列文獻と関し、高橋義彦と云  
を尋す。今日全解禁を行ふ。午後、松原を  
兼する。所得稅徵需列、矢吹家の今と先  
を尋す。春城漫筆、五冊出版部と致す。



今朝雪を以て彼向方持義走と聞けり  
乃河田賢貞教小接明熱海くまの  
七光りともふ十時電もあかし先  
送るん中未停車場とも十一時  
丑今昔板橋の河の東中野新橋  
車西に板橋へとも法を車中  
一多し今午一時二十分  
ちの場内を流ひ歎呼喚と  
と交りて夜に本野彼に投す  
夜に入り

榎原製

市中散策古谷印屋を過き二三  
を橋の中にお祝心佛縁の目貫あり  
睡眠を以て夜半も新橋戸の  
談あり北比栴花満開  
近利地集を照る

昨日の秘談とて考極細と考一旦  
おのち萬用とて考極細と考一旦  
福良谷を以て考極細と考一旦  
望文義と考極細と考一旦







未問、必後施録を善す、夜半一時睡覺の  
讀残の書と痰を枕頭の麦酒を便けて亦  
こ、夜未雨あり

十五日

昨夕新倉前市中を散策、内倉別荘(不在)を  
過き一二物を焼くを悦ぶ、雜録二三枚録(終り)  
迄を訪ひ十一時別荘を告げ、十二時二十分合の院  
車(こ)油京の(金)上るべく、勘定おを満りし  
午後後五に出発、今日の熱波の温暖四月の

榎原製

候の如し、三時在東京着、真々物も車乗も亦  
外に暖うさう、後春相若る、武田尾先上原康  
道丹呈、余去、河内路、次田中山一暮、未問  
亦方、亦況、未と、又尾作、亦種、未也、

十六日

明山、山内、山外、十時出、收部、幹部、合、此  
又午後、下谷の文、り、市を、訪、め、物、へ、殺、生、肉  
白行、状、記、を、讀、む、其、義、増、大、中、も、未、也、

十七日



市表の府古澤を扱と幅一書簡書三表  
其を託り、後上表り例の注射と施す。養生園  
白行状記を讀む。傍に施すを著す、夜に入  
りまゝ養生園白を讀み遊に後り

十八日

市表無望三子論野も一人車城改改石塚之  
の記ありと再び二三の骨董を扱る。平山堂  
文如平状を著す、十一時迄大隈令館に到り  
詩生命條除分社の支社去十数名を迎へ午

漢源堂

あつても開き余出版部を代表して一場の挨拶  
をす。且つ世刊の漫筆とを扱る。宇都宮其  
時と物と贈り来り。二味律の訃刊の未だ  
久伊藤の井上峻流とと拙意を要あり来り。  
治産物と贈り来り。五時迄は町家書  
招かん行く。未合者入深建部<sup>書</sup>市成  
一校多行荷土屋文雅十時迄は後美し  
散す。外山中石塚三年の事。

十九日

日







贈、二味練死云、付香具、山老、出刊  
漫筆、ふつき本、弓氏弘、未、洞、又、幸、城  
政、流、と、未、出、豫、期、の、如、く、奉、口、衆、議、院、解、散

二十二日

昨、大宮、へ、入、り、武、田、尾、吉、石、山、元、花、出、敗、部、の、家  
件、二、つ、き、身、訪、時、と、呼、出、美、田、中、と、馬、坂、上、弘  
花、亦、云、盛、と、し、経、緯、按、察、(廿、二、日、以、来、各、局、各、所、  
の、事、由、判、り、植、木、を、事、了、其、紀、を、施、す、三、上、於、  
英、文、の、小、説、を、讀、む、

二十三日

昨、山、森、利、一、三、侯、補、の、つ、き、身、訪、大、政、の、石、山、元、花、  
印、雪、積、り、を、立、候、補、を、告、ぐ、冊、美、宗、吉、の、漫  
筆、を、郵、送、神、代、程、亮、と、し、未、尚、十、時、迄、を  
付、め、て、出、掛、三、紙、共、時、辰、琉、球、掛、毫、の  
海、列、を、見、日、地、産、ハ、ニ、ワ、(馬)兼、一、二、玩  
具、を、購、ひ、白、本、摺、り、時、と、飲、一、九、日、物、心  
台、湾、手、物、有、り、各、局、未、見、ぬ、と、物、を、贈、り、  
午、後、山、人、の、着、物、一、毫、森、原、美、一、母、為  
氣、あ、り、付、元、あ、り、し、三、紙、切、午、十、日、形、子、桐







大分一國海防學士(或政治部長)多吹米  
の外交並に政治に就て二時不經の海防を  
多く、星野氏(或)未出、而子視刻、而く

二十一日

時、高橋渡三淨念寺河越(一)き未、海軍  
軍医少将石原純因山陽の古簡悔を携  
へ、其証光を以て、淺草に教養全回、  
飲上、論(一)由書後、死海を兼下し、二時を  
後す、其時、高元政上、統婚、技原の(一)安、

櫻原集

扱、外、東、泰、令、領、と、利、の、小、寺、原、ま、る、し、未  
書、早、大、政、況、科、辛、業、比、念、ア、ル、ハ、ム、に、取、ち、(一)き、独  
毫、七、大、原、万、平、一、文、付、

二十七日

時、旅、海、と、兼、り、可、三、城、這、文、の、の、復、出  
未、表、り、る、心、に、持、し、て、幅、兼、一、方、向、ま、志  
表、成、る、文、行、事、と、論、の、を、旅、者、と、婚、ふ、二  
十五、日、支、拂、し、松、尾、尾、三、洲、信、中、の、派、令、意  
説、人、(一)東京、の、三、主、催、成、令、洲、設、四、十、年、紀、念



を兄の、愛犬麻衣の、（一）方甲子方方、（二）廣流  
入る

二十八日

晴海迄、三木武吉、送着形勢、（一）つき、（二）取  
淡、石原純因、山陽者、河板、（一）つき、（二）接、（三）見え、  
武田尾五、出政部、の要、件、（一）つき、（二）取、（三）後、  
龜山素三、松本、紋山、の目、兼、者、好、持、其、  
旅、船、を、著、す、田、村、社、二、午、日、本、歴、史、団、体、  
近、刊、二、輯、を、齎、ら、し、来、る、小、久、江、村、一、年、流、

種河集

坊内、徳士、朝、の、あ、ま、し、（一）文、（二）中、（三）朝、日、讀、（四）千、（五）山、  
流、場、（一）寄、（二）附、（三）の、（四）多、（五）と、（六）河、（七）味、（八）と、（九）扱、（一〇）て、（一一）来、（一二）る、（一三）流、（一四）迄、  
直、（一五）一、（一六）流、（一七）一、（一八）書、（一九）を、（二〇）よ、（二一）ら、（二二）り、（二三）五、（二四）時、（二五）神、（二六）田、（二七）島、（二八）志、（二九）河、（三〇）四、  
解、（三一）を、（三二）、（三三）刻、（三四）り、（三五）四、（三六）信、（三七）會、（三八）、（三九）信、（四〇）り、（四一）方、（四二）村、（四三）光、（四四）雲、（四五）の、  
坐、（四六）淡、（四七）あ、（四八）り、（四九）十、（五〇）の、（五一）如、（五二）毛、（五三）、（五四）夜、（五五）未、（五六）知、（五七）あ、（五八）り、

二十九日

晴、武田尾五、出版部、の、改、革、河、題、に、（一）つき、（二）取、（三）流、  
法、（四）り、（五）文、（六）集、（七）風、（八）の、（九）短、（一〇）冊、（一一）七、（一二）枚、（一三）他、（一四）の、（一五）と、（一六）販、（一七）り、（一八）精、（一九）り、  
、（二〇）種、（二一）種、（二二）を、（二三）著、（二四）す、（二五）、（二六）坂、（二七）上、（二八）山、（二九）花、（三〇）と、（三一）牡、（三二）蠣、（三三）を、（三四）あ、（三五）り、



来る。神籾日年とて加藤恒志隨筆拓  
川集二冊寄て来る。先をばりて里も  
物と燻心、文新書、圖書と辨る。詢ふ。  
馬山和洋山亭お母の校去杉山宇三印とて  
の揮毫を承ぬ。大波の和文と申す。物を  
賜り来る。母新紙も兼す。楠嶽日年  
と狀をばりて宗家とて猪丸、紙後於命とて  
と賜り来る。夜に今也

三十日

榎原製

頃、朝来宛紙と兼す。海口信馬助三木武吉  
送書。訖と云り。去日、北川集を後取干後  
日本橋書局に託し、宛今申在塚  
三印とて、主候傳。訖と云り。

三十一日

頃、改上弘花江射七施す。為め、龜山兼  
三、とて杉林改山の文物を辨る。代價十五圓仕  
拂、自著二冊代料の内とて、交付。出政部の  
案件のとき、武田の事をも託さ。内取す。龍紙



と著す。人の病に及じ福保あゝの治物の長、  
造四郎等。造奉河魁二のき丹善原平二乙  
状を別す。二十数年前かときり工藤行幹の  
遺子工藤益三も孫傳記の首節に記す。是河  
と孫ふ乃そ流す午後又江成一身流井上峻次  
より出利。

〇二月

一日

頃十日昆田他一院婦投宿の件につき山林堅三  
式物旅保を著す。午後夜東一二の考録に  
就て同書も読みて帰る。寒氣かりり一天雪  
を降る。夜ふり果し七雪降る。細川  
山居、十四日

二日

日

雪三丈程あり。未前、雑保を著す。竹内三  
大もこの解を記す。未前、昆田宿一院婦に記す。



祝儀として三紙切千二十田(又)雪の中出る、丸  
ビルルおを舞ふ、又神田の玉房と二三のおおを  
し切く、午頃より雪あふむとあたま、台湾を  
う来り伺。

三日

晴、相身旅取を兼す、二条行軒依記の首節  
こ異く題詞押是、高田信長、舟泊、阪部の手  
を御遊す、片山利久、来り師範部、会品大隈  
先生、有線入寺、徳を贈り、師範部、生のもめ

色紙押是、午後紀行友、日清、今、信陰、株主  
今の通、腰別、又、電話料、二十三田七十八、  
納付、例、来りし、今、昔、物語、を讀む、今夜、節  
か、豆を撒く。

四日

晴、高島、況、ま、ま、来、武、田、尾、ま、有、訪、先、を、付、  
て、口、を、指、さ、し、散、策、神、田、の、お、店、細、り、十  
田、信、拂、も、何、の、文、の、お、ま、二、三、の、回、者、を、贈  
ひ、十、田、信、拂、何、書、後、旅、取、を、あ、り、す、木、曾、在



系書中事被早大印記部を銀巻のウス  
ホ夕〇ン(大隈元彦古傳を刻するもの)を送り来る。  
青石左衛門因も山陽兼に江古原の若者を托さ  
る。此谷ハ波も古傳<sup>和傳</sup>二十一年行も空を来る。  
昆田未亡人も来る。

五〇

時、朝来旋和と筆を人の喉を度し教紙  
揮毫、亦山陽早原の若者情画と題する者  
柳馬垣来伝、二時の原部印未亡人元老の報

藤原製

と如大書局院二部を印外、刻も大隈  
合録に判り、改作公の臨あ、例にも金杯ハ  
因之の附有、未合者二十一名余席上決説を為す  
十時物毛、深更も雪降り如す

六〇

此如も雪三寸積り尚續行に判り、在古時肥  
田守長三郎も向書判の直に返簡を具す  
且つ春賦漫筆と郵送、此谷ハ波の墨  
磨も祝し一也を見る、以回村上現費職



日出、谷金大寺にて、佛并二體と書し、七時、新興  
外、龜山寺三時、午後、廣井一寺、功、時、時、時  
く、ち、ゆ、り、流、し、七、あり、高橋、氣、彦、と、未、書、高、  
山、湯、井、三、杏、塚、小、池、二、橋、龜、山、寺、三、抄、大、寺、題、  
一、匣、を、持、り、乃、ち、走、筆、鳴、こ、應、す、能、報、を、等、  
一、夜、こ、入、る、

七日

時、朝、来、能、報、を、等、す、十、時、に、政、部、の、行、部、令、  
に、臨、み、午、後、四、合、の、平、山、寺、と、信、堂、に、納、復、唯、

藤原製

の、小、正、畫、帖、を、贈、り、石、原、純、因、に、投、簡、能、報、を、  
放、録、一、冊、録、一、筆、一、る、

八日

時、三、菱、島、の、午、時、期、始、と、書、し、更、ら、る、二十、日、可、別、  
川、流、内、島、大、堂、一、香、を、贈、り、阪、上、山、花、寺、に、注、射、  
と、施、す、能、報、を、等、す、合、体、八、一、と、書、し、物、を、贈、り、  
来、り、阪、口、献、書、目、録、未、廿、五、日、春、城、令、を、功、り、  
亭、に、聞、く、こと、を、報、す、午、後、散、筆、日、本、橋、  
助、骨、堂、納、り、小、品、四、紙、を、贈、り、又、復、す、



選考の調一七冊其の原平一も未開

事

九日

日

雨に昔物修を讀む石比内原久寛、不幸  
元氣も葉子を新造、石原純因も葛  
葛酒二瓶貯り、午膳一杯を飲けり又刻  
書を眺む

十日

夙十時の法印創の重役會に臨み、田舎後

藤原製

旅保と筆一時を移す、今津ハ一と一と書  
す、大津決りの水説を讀みぬこ入る

十一日

紀元二

昨、龜山寺に身持、大津決りの水説を讀み  
時と書す、午後石原純因來訪、囑りて  
題匣の二幅を交付、其時と東東會館に  
列り、此の酒一の法持投宿會、臨み、余を  
更と代書し、祝辭を撰ぶ、日出谷を望み、  
了海也所也







時山田河見二探盡二耳振友愛法結  
在法衣午後散策神田の古跡を訪ふに由る

十六日

日

時朝未醒候と覺す十一時迄を伴に出浴  
此坐に飯し邦樂座の映畫を見死の秘録  
と興を元ふ夕刻物語

十七日

時武田尾吉来談出版部刊行教科書入

東京製

送の答校九十二連し等ことを報す於報  
を筆し一時を後分友愛法結と法衣

十八日

時朝未醒候と覺す日時生食を配由  
至飲ぬ毫山素三句佛上人の觀音菩薩  
幅打冬價廿五圓也武田尾吉元花  
出版部用し未結友愛法結を法衣午  
後河林あり及来談三時散策神田の古跡  
候を法衣中集飯し七時ふ法衣改志心



尾の白伸梅の表紙を託す。

十九日

晴、改上弘花の例の注射を三又く、高田回中  
迄と来たが、古河令就の内江のとき歩的る内城  
夫、休務のゆゑ、身物午夜を興つてある。大  
坂、長崎、物置恒々のお刺の、姫路未だの以谷  
山成、幸しと余の押直毛を需め、洋床社  
り未出、故来日本橋一雨とあるぬ、三を結  
め、ゆつ、古河電平、二瓶表と依頼

陸原製

二十日

晴、姫路、谷山成車と押直毛を郵送、三  
徳、送奉、投票、日、廿北、何、小、高、校、と、判り、三  
木、武、克、も、投、票、出、版、部、に、判り、二、三、事、を、定  
し、三、回、借、入、文、行、を、も、判、り、た、事、を、  
信、を、作、文、物、修、を、購、入、動、定、の、内、く、四、十  
八、回、拂、入、り、も、持、た、時、に、飲、し、た、事、を、重  
骨、重、屋、に、二、三、の、物、を、購、入、せ、ゆ、つ、る、事、を、林  
貞、確、の、二、三、代、嫁、す、に、廿、先、お、り、為、め、父、と  
も、三、先、お、り、接、ぎ、入、院、中、の、大、正、院



二十一日

小和、龜山業三に句佛執者ニリリ、代廿五内返り  
山陽州四の儀歌を録し、午後雨を高くし  
来り、九時甲分地雨あり、帝國道代記と  
内容証の方面を以つて、株金拂込の催書状  
列し、帝道の催書状を糸護士内四七印法ニ  
送、昨村長久と雪法を交由、午後各地の投票  
削票の報、傍々列し、西学ノ良法又あり、  
訪、先とて、鉛生昨去、亭と、總書夫、石原集  
三の、も、帝道と報し来り、三未、新、安、帝道

藤原製

二十二日

昨、消途、武流中、も、来出、帝都後、無、六、奉  
礼使を末四に派し、二時、時、新、新、来  
書、服部耕石、月、訪、證、主、原、重、隆、も、う、と  
甘名も、野、も、午後、會、帝、族、會、殿、と、列、り、之、の  
協、今、の、後、証、考、に、臨、み、夏、秋、電、一、露、玉、の、  
情、こ、つ、も、二、時、百、二、海、り、得、証、あ、り、甲、由、の、  
今、を、閉、つ、身、今、者、名、に、達、す

二十三日

日



陰、法送、奉、民政、産、絶、對、多、致、を、無、く、不、民  
政、二、七、〇、政、友、一、七、〇、政、友、の、祝、名、の、士、多、く、法、送、  
旅、送、を、奉、ず、し、法、送、を、先、を、付、け、し、白、布、を、  
あ、と、贈、ひ、甚、兵、衛、三、上、空、の、り、多、時、民、政、の、大、功、  
を、祝、し、と、大、白、を、奉、り、し、各、各、別、在、植、木、祝、手、入、  
料、(此、年、分)五、十、二、百、押、油、谷、山、成、奉、り、し、御、出、列、の、

二十四日

時、旅、送、を、奉、り、し、法、送、を、奉、り、し、の、春、城、分、  
二、の、き、あ、り、し、外、村、良、久、と、音、通、の、件、に、お、き、  
古、文、機、伊、豆、地、方、地、害、乾、安、の、き、在、祝、海、

坪、内、二、元、高、祝、を、奉、り、し、下、林、方、祝、物、お、身、  
雨、子、も、切、同、く、あ、り、平、山、お、多、く、加、納、長、藤、小、  
西、松、代、五、十、四、掛、高、藤、祝、物、春、城、分、  
奉、り、し、祝、物、開、乗、り、し、骨、董、七、懸、記、す、内、  
孫、久、寛、を、奉、り、し、又、内、田、七、郎、祝、の、書、物、一、接、  
す

二十五日

時、吉、田、和、男、お、り、し、し、京、繁、と、味、増、法、送、を、  
奉、り、し、此、の、祝、物、祝、物、長、三、郎、お、り、し、奉、り、し、旅、送、を、



兼て、里井六印とて来志、二三日未天候  
麦微温度七十五六分を上下す如動  
ハ其象甚む創設後四十餘年尚如て  
不也と、難波現一印：「尚しとて」を托す、  
の日四時印刷令祀の幹部令とひとて道刻耳  
ふ、昆田未亡人來福、五時祀樂政太郎とて  
：赴く春城令に臨む、法因人余の考める毎年  
一回余の延辰と此令とひとて、今の又令  
也、余席上一場の活法を試む、未人令  
五名、余の近刊臨筆とて席者とて、

林原集

二十七日

時、其此柱たり、坪内道忠より来、簡敬兼  
日本橋、長多、重高令と、途金六朝佛を  
ふ三十日、掛、台湾重柳、静の病状、  
未書、四時印刷令祀に到り、幹部令  
：跡々、夜、入り、中、午後、降、夜、  
雪あり

二十七日

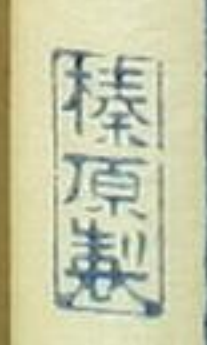
雪、山、田、山、武、田、尾、吉、其、接、坊、上、弘、務



江戸の為の来り大坂の石原某より御座る  
南進の挨拶。日あり、正午より光を以て  
七敷某の石原の杉尾と物を贈りて市某に致  
し、湯川の杉井屋の味書を乞ふと物入の葉  
萬次郎の訃報、難波堀一平と来也。

二十八日

雨終の無聊、洗脱後、ちぬの他、曾良三郎  
も龍眼肉を寄る来り、南洋兵船分舎此  
テニアノ農物の冷えうさを言ひ七時、五時



三月

一日

紅毛の来り、列り三人今、臨む、酒造、更り、  
り来書。

時、股部耕石、喉、印、奏刀、白木



尾と詔ふ七陸軍  
展覧會を見、五  
時田端の自笑軒



赴く、出政郎のあ科書八選を校に及比  
るを祝する為の五十員外海輪の並り  
了る者第一書は冬一巻のものを令し席  
上令しし御辭を述べ、教師司の讀を解  
と送成すべしと説く。

二日

日

昨朝之後書十一時出遊文行堂を訪る二三の  
回書と攝入杉路を前より地下城へ乗り涉り  
刊りの助らるるもの品離具を贈ひ日本橋

榎原製

こ出の書も書き方より立寄りの物無の品を贈  
あてぬ。

三日

而、武田宅を去り山田海生亀山素之と東橋  
旅の書を著しし時を貴く、服部耕石の印  
松代刻料廿十員為持者、圓座も通候に  
の某日梅より後の夜あり居せす罷す、午後  
七能州を筆す、台湾重松他二とをシツ病  
状に付来也、台北も付せし送りの分察也



けり内侍の志状を認めずとあり云々  
マシク来り、七島魚の、江生流うらおもて後  
あ、

四日

陰、後日、献吉武田尾を来訪、おまふ、彼等、  
小説を説く、白木舟を説き、陸軍、記念、  
説、人目をえ、喜多、高尾、二、三、ホ、  
あ、物、く、和、久、中、さ、長、女、分、  
一、来、り、河、水、安、後、山、田、心、演、講、の、件、  
二、竹、来、り、三、時、の、降、雨、沙、お、の、柳、四、

榛原表

パンフレットの郵送を乞ふ

五日

和、報、来、り、能、保、を、養、育、亦、最、後、也、  
終、り、来、り、出、政、部、と、前、す、七、島、魚、の、江、生、流、の、  
表、裏、も、淡、山、干、後、雨、と、衝、て、又、の、本、と、二、三、の、  
同、書、を、送、り、目、を、指、す、即、ち、小、品、皆、差、を、持、り、  
出、政、部、原、則、に、致、し、て、物、了、り、去、り、去、り、  
と、新、報、出、政、部、に、行、来、り、



雨雷朝未始解を兼す武田片光部  
求来迄午後出遊九口ル比物を解を細  
後乙夜に入、夜未雪小

七日

寺、龜山幸三身攝十時出遊部：利の幹部  
今：臨去、幸四回有故増築落成のり十  
身結去るも安内状刊、横山又唯  
未出出遊部、故科書冬去有方

棟原製

抄書一出段三日本を多く、故兼丸心  
又物を獲六、二三施信二攝す

八日

雨朝未始解を兼す、段上より注狀を施す  
午後細川書店七物名二三雜書を購ふ  
七物、早大より、福永書利、十三日維物  
買合の面知す

九日

日



陰朝未難保を兼す、以乃古田和男の爲に  
存し、座衣紙十則を編し、六珠語十數則を  
編し、和男の一人の爲す、由來久寛と電  
詔を交り、早山素三と山湯の扇面を嫁  
ふ、田中伯山、河津田の休歌を編し、たるとも也  
正午山とく家を出て隅田公園をえんを  
先を伴ふ先づ浅き金の田に飯し、を妻  
橋側にも五波並流をも言問、持ち上陸と  
れと、以奥公園を敷果す、言問園子長  
命寺町の橋師の店をも、皆を文化家を

榎原製

る、代りをもえ、里王堤ハ皆コンクリート  
道跡とす、道の中央に橋桁を植く川と臨ん  
て皆を道に掘干あり、堤下の新築も未成と  
さるも不溜る道跡公園既ニ六分の成ると  
見え、三圍の社に入ると、新築の橋  
下もこく、いん言問橋に、更にも一橋あり未  
成り、終つて、こん汽車の橋桁、果其橋  
今築路より、こん橋に、新築の橋を、こん更  
に復興の道跡を、捨令し、新築を、こん  
為、新築の、七時迄地震あり



十日

時、酒を求之行、今又長石家甚下、(陸軍  
歩兵中休後出身)を伴ひて来り、法論の  
時を移す、疑を去る、且松来り、田中光親伯  
二、後名刺を此下、海を求の者、好を校閲  
し、(郵先)新河吉田和男、郵者を免り、二  
時、(天)地、悔冥驟雨を催し、未、(並)燈書  
七物す、本日、(霞)霧り、移ける奉天合戦の  
満二十五年、(當)今、今夜、寝ぬらじ、天、(七)松  
上陸甲、各科、演習、比、蛇の、(考)を、(聴)く

榎原製

十一日

時、武田尾、支出、敵部の、(要)件、(二)つ、(き)午後  
四、(保)元、丹、(三)原、(平)方、河内、(庫)に、(登)り  
来り、(十)時、(日)印、(刷)今、(此)の、(重)役、(合)會、(こ  
臨)也、(押)毫、二、枚、(吉)田、(和)男、(郵)先、(し)す、(午)後、(閑)に  
乘り、(回)方、(七)時、(を)移、(合)廣、(田)金、(松)よ  
り、(来)也、

十二日

時、九時す、(一)前、(比)倉、(あ)う、(や)、(地)、(旋)転、(を)為



才、由、あ、久、寛、来、訪、米、圓、米、相、具、を、贈、り、る、  
龜、山、米、三、こ、山、陽、扇、而、代、の、内、と、短、冊、色、紙、六、  
枚、交、せ、出、版、部、編、輯、費、馬、場、力、外、一、入、手、接、続、  
七、村、山、如、し、助、手、訪、午、後、文、行、書、と、訪、之、  
天、海、傳、心、の、本、雲、廿、南、十、字、文、(洪、武、版、  
を、辨、の、價、六、十、日、也、由、書、後、雜、録、と、筆、才  
視、に、今、亦、降、也

十三日

而、内、米、と、依、頼、の、文、務、を、校、訂、し、工、部、筆

日、回、者、を、敷、出、現、す、午、後、登、校、准、持、負、令、こ、臨、之、  
秘、書、亦、と、議、す、三、時、通、由、書、令、津、八、二、  
リ、未、也、且、近、刊、五、洋、美、術、を、上、書、と、未、  
の、八、の、早、稲、田、大、学、現、在、電、氣、局、の、三、段、家、に、在、り、  
か、く、若、く、し、り、る、通、信、會、社、法、定、を、及、び、所、得、税、  
未、四、割、徴、票、刊、入、同、出、場、今、と、未、也、

十四日

時、市、も、と、も、三、名、の、辨、護、士、を、代、理、人、と、し、七、株、金、  
未、拂、込、の、借、入、物、利、を、右、と、り、き、一、割、を、作、付、金、



夕に投(文三を由の七)申渡方、者二十時出  
版部の役員会と雖も、午後五時迄は力に致  
利者数の用者多し、相編纂を遂げり、其  
し相編纂一時演説者、務本に判り、河井也  
又川山田日高、楠山本則と彼授合の但爾  
を責る、其因とす、件は自由致す、今  
出席者少敷の爲の、毎分す、こととす、  
五時、其に二丁目を、此に、此に、此に、  
相編纂の、其に、此に、此に、此に、  
会をい、

榎原製

十号

陰凡所得稅款の届出とあり、官紙を、作打あり  
と、事通二件とあり、其の、其の、其の、  
其、其の、其の、其の、其の、  
其、其の、其の、其の、其の、  
其、其の、其の、其の、其の、

十一日

日

市内、其の、其の、其の、其の、其の、  
其、其の、其の、其の、其の、  
其、其の、其の、其の、其の、  
其、其の、其の、其の、其の、  
其、其の、其の、其の、其の、



一に此れも、早大電氣科の者の係  
りて、シゲエー、ジモンも朝の  
す、二竹葉内、秋列の人も、  
掃除、且つ菜園を、心、入り、雨、

十七日

時、蔬菜、并、花卉の種子を、  
二、到り、終、二、城、内、色、自、  
山を、詣り、終、二、廻、二、午、  
遊、園、を、華、一、七、時、を、移、す、

榎原製

十八日

時、比、岸、二、入、二、朝、未、  
止、若、昔、布、末、外、文、物、  
松、十、五、元、毫、山、素、三、  
も、方、二、高、須、苦、湯、中、二、  
も、方、二、高、須、苦、湯、中、二、

十九日

而、後、時、朝、未、遊、園、を、  
内、田、七、中、流、二、電、



既してその登美夫令社の事件三村長時宮城  
十二時三刻の辭りある、波部求々来也、文行  
堂を訪ふ者物代の内不用者迄五十内拂ふ

二十日

是朝来遊ぬを兼て武田尾吉出政郡の子孫  
のとき来訪高田孫一印死去の報あり、久保田文  
之印月功治等りのちと終して去、数来日を借  
る所生に到る、一時は切書、亦遊ぬを名する  
政政社とて米田大儀分見記(米田)を、枕紙

林原

すかしの字のそまの、真此社中、と梨果を  
贈る来、の、後高橋、一と、来書

二十一日

春原重空祭

晴朝来遊ぬを兼て、分中、一と、来問、小  
木堂三馬功物と贈る、平山登美夫と、と  
来也、干皮走を伴て、新米産の、快書を見る、  
杉倉、の、文化、店、境、分、と、あ、と、二、日、報、社、  
と、あ、と、尾、名、の、函、列、と、尾、名、と、来、也、



二十二日

所報の如く物類の多し移居の時各々  
とくに文化屋の焼く出陣のとき  
を換出する多し時官を為す十時  
報紙より社費をり屏風馬鞍  
十五紙と交付す久保文に竹  
次男昌二紙報のつき来揚  
花紙と筆す高田路一  
中筆成の香典為持文三と  
考す其時に出出を為す六時半  
臨宮あり

榎原製

二十三日

日

吹合らるる幸都復身祭始す  
早火の小林友枝の如く  
遺書を焼く来りお香を  
たふす座落を主極す  
病状を報し来り  
病状を報し時を病す  
午後散策復興  
祭外一日の市中をえり  
石地蔵の長文寛の寺  
状に揚す外出の序  
相性松屋の板紙代  
主侶江戸文化展を  
観る余の花器七  
出陣ありあり作  
器六石中碑といき  
賑は



二十四日

本日聖上幸都後奥に遊覧の日也幸に御所を  
得朝来旋廻を兼す其時桂次郎来訪  
白魚と遊む村口半為の舟子接尾を其日  
未の人来法田打社二印と記き其子如く二  
千圓得入し事と極談す其印印刷紙株三言  
五十株差入金船の次流を以て午後先を以て  
七渡無奈の市中中の此日魚を視る公す御所街  
頭人と以つて換す其夜徹宵御所の西側  
に群衆在りて為の瑠集夜をゆかしき

稗原製

痕跡是の痕跡つて歴れを考す一七世  
の熱誠と感激せしめたる三時生相の形  
史記前よりぐ例のスクレンを以て火字を以  
つて此下果沛の知らせを見し家と仰ぐ其動  
詞のや山三八其活新の果林羊一語あり  
小三原新其事活夜中三行不遇の日の物  
す、物を貯る

二十五日

由相東人の囀りて序に推是十数紙成る以上



多し注射を施す、山王原敬、栗井次男、合  
の件、付来、訪、腫を村山秋清寺門前、新の  
の遺骸を掘り来り、示す、早大より来書、  
お田長次郎、信乾、の件、関し、一志を小  
川睦之助、の件、訪、村山秋清、を代、三  
田、掃、古、馬、あ、ら、と、二十、の、千、元、二、千、四  
借入、二、時、の、散、策、の、信、節、の、小、品、を、贈、り  
て、御、一、の、信、津、八、一、の、細、書、列、入、亦、平、山、登  
美、夫、も、来、向

二十一日

頃、今日陛下親法復具の式集を奉けらるゝこ  
へき満都休業、民田尾夫、身取、口、生  
命、望、月、祀、中、と、廿、分、鐘、を、お、こ、ま、光、を  
従、ち、を、散、策、給、存、口、を、栲、の、市、光、を、観、の  
湯、城、の、士、女、旅、送、時、と、飯、甚、な、団、体、の、行、進、  
も、見、る、六、花、電、車、を、見、る、一、時、物、宅、合、建、  
ハ、一、と、南、都、美、術、研、究、の、首、尾、を、定、め、  
す、あ、ら、内、外、と、三、三、の、因、交、付、二、時、の、下、谷、里、の  
町、文、行、巻、を、治、水、上、院、大、も、り、人、を、以、つ、る、寒



より浅き方面へ進出する所ありと神田三利  
の北河電車道を挟んで人を以てて填ふ  
事ありと四ツリを備へてゆき長金代紙の文  
行を拂ふ

二十七日

晴山田信成君の、新刊寛永江戸日記本  
奥の巻次からして、寛永年流札古を寛  
政日記の筆名に代りて別のうり會然一冊を  
定めてある、難解と云ふ事、今此ハ一  
冊

藤原製

秋を是より十一時出浴山本細川考君に回を  
贈り山あり四十日細川二十日押、松野の作  
に致して物く、不得從納付金五万圓向ふ  
に、

二十八日

雨、朝来強風と暮ら、時七移す、午後  
於書と物漢す、今夜築地錦文、小生余  
社書印印印印印印印印印印印印印印印  
の定まりとのと在と踏あり、印刷会社が保陰の  
莫中集類万二十集を、一字を以て謝絶の



方外也、今更六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

二十九日

時瓜、龜山貴三、若返、四十日、柳、高尾三、中、本、  
坊、押、真、毛、と、七、と、高、山、田、清、心、經、七、来、く、亦、又、後、田、文、三、  
助、来、橋、千、後、身、族、今、領、文、政、場、今、の、梅、法、今、を、  
心、く、亦、田、秀、次、中、の、歐、洲、祝、祭、法、二、時、分、に、  
湯、又、市、相、他、二、藤、田、鏡、出、く、亦、来、也、句、佛、  
觀、音、情、表、壯、衣、成、り、

榛原製

三十日

日

時、朝、来、遊、船、を、筆、す、栗、林、正、小、山、武、文、来、話、  
船、生、に、物、を、贈、り、半、後、の、法、印、創、合、社、に、知、り、  
社、員、を、今、く、一、場、の、刻、示、演、説、を、あ、し、旅、率、  
増、進、工、業、法、海、を、説、く、終、り、幹、部、會、に、  
臨、む、四、時、中、物、書、京、京、市、史、才、三、言、命、游、園、  
篇、等、就、に、松、七、印、創、成、了、一、部、配、本、と、三、言、命、  
辰、身、傳、く、と、来、也、

三十一日



晴、湯が低下、朝と散東琳瑯園と坊の二三  
の園者と膝ひ勘定二十二日海、之り巻と浪  
池、一端を江と東台の梅花と見え、本橋に  
リ午浦、暮方重方、主客あり、狩り、城に心回  
面の結しと舞の、皇太子の命と交付、表も  
勘定二十四日故神酒、午後光と付、表も  
外出、新宮に、苔丸の籠子と祝料と踊り  
庭、庭に、湯の、朝山社の、方、新宮に、陣列、  
花、為、屏風の、の、唐、辰、の、松、庭、と、可、礼、と、  
ある、切、手、二十、山、野、の、末、の、西、園、寺、の、重、心

榎原製

と、使、の

〇四月

一日

雨、朝来、籠、取、と、兼、下、山、田、馬、心、系、取、鈴木、賞  
彦、と、来、也、未、と、若、也、と、見、方、今、井、玄、秀、の  
部、利、の、小、川、腫、し、脚、も、又、前、利、の、西、村、徳、太  
郎、と、山、陽、遺、三、集、點、の、若、者、と、訪、ふ、  
物、就、来、日、午後、浪、在、新、宮、に、到、り、六、大、子、の、  
列、を、見、る、（念）九、女、坂、下、に、乘、合、自、動、車、



同乗の女学生降車より刹那誘うを伴入る車  
ニ乗る、報知社、陣列より為り傍り、  
集風成り来り、

二日

昨風寒氣冬と異ふ、所得税五万圓納  
付、其時典二と来り、池田龍一追悼会  
の来時と振方(十口)光を伴り、  
果実、四知志の杖を贈り、  
と贈り、旅人を兼り、  
時を待つ、  
河内

榎原製

庫に於て、  
夜来り

三日

社武天皇祭

雨朝来り、  
立派後、  
山素三、  
向佛上人、  
全泥観音  
像を、  
久保田、  
二、  
一時出、  
上  
池田、  
三、  
同、  
出  
二、  
外、  
中、  
一、  
伴、



小宮原身記

四日

晴、相来、強、保と筆、去、郷へ對、互、表、来、り、  
余、の、押、立、毛、を、納、ふ、海、し、七、紙、本、あ、ら、う、か、り、  
宗、八、子、次、武、田、尾、吉、野、を、来、訪、三、島、良、  
花、の、結、婿、技、家、に、振、り、(十五、日、希、田、ホ、テ、ル、)  
云、因、前、の、花、壇、を、終、ら、し、神、律、河、来、り、  
す、切、版、推、子、を、渡、ち、四、時、あ、の、美、次、り、方、に、  
獲、来、る、合、四、人、令、し、次、切、の、出、し、抄、本、を、協、議、

榎原製

す、あ、田、ら、し、抄、本、の、即、合、を、交、え、  
部、に、納、也、を、考、へ、す、

五日

晴、相、来、強、保、と、筆、し、う、台、海、の、中、極、地、二、  
り、来、間、郵、局、病、状、を、報、す、段、上、弘、壽、寺、  
り、尙、の、注、射、を、施、す、内、子、石、塚、方、  
流、産、と、知、く、久、保、田、文、之、師、ら、し、  
尾、三、ら、し、来、の、日、入、の、一、身、上、  
原、之、状、を、考、へ、す、







あつんとす。志料の数千枚に及ぶ。大阪毎日  
新聞も余の定稿を求め来た。今月八日  
にも来た。武田尾を再訪。三菱銀行の約主期  
限につき更なる割引をりす。午後四時  
一書をあし。未達品の照会を為す。午後四時  
少し利米の小包の取をいふ。一々取捨山陽  
氣分漲。既交の時を移す。但、料<sub>治朝</sub>  
心来訪山陽邊三も同訪。冬刻林登米夫  
國書館協会の件につき行。

榛原製

八日

早夜雨。朝来風。志料も整理漸やく畢  
ふ。貼りの文三に托す。今月八日返前を投す。  
台湾重物も物を終ふ。整理を早す。光を  
付す。教員大じん米。少も移す。多寺。方、  
おもに贈りし物。夕刻駿河台の市面者。彼分  
彼。國書館協会の理。今を期す。法人問題  
才を協議す。十時迄。物志。

九日



晴十時日清印刷舎記の重役今に跡みも取物  
も一時決まると西村囃りの山陽邊愛品の  
運面起署も始り夕刻にありて全部  
成りあり三十八運の骨董生を遂に狼  
藉夜ん七一々運に納あり能いお成  
日更ら残部日執筆下を初より夜に  
入り難ぬと著す新河栗林代人より三城切手  
三十山)も燃え、西村徳吉より子清彦出書と  
報す

榎原製

十日

晴、今朝山陽骨董運署も全部畢り  
西村清彦、簡す、久保田昌二も中山の取手  
あり、合津八一并川紙の山岸徳平も未書  
龜山素三其子牧の淡路山外全紙幅を始  
り價五十圓未拂、難ぬと著す、徳人か出  
取文り書、三四の圓書を得、此方徘徊三時  
物書、山岸徳平、二差也ともあり、七り文り書  
、三十山拂入、夜に入り、雨、



十一日

晴るもの雨敷を存す。庭園の新保西を鑑  
一ぬ流を加ふ。夫何又雄と自傳を定めて  
又上野市曲園を鑑しと記し出せしと位  
古具交り上野の山見山朝香の園  
を定めて其の長中豊山の寺向集法以  
勝本表代杉西村清彦其項西村徳大  
印爲の骨董全部交付、南化特産那  
智里石雲龍大研と題し、更し山陽  
自記の秋葉、花瓶の果の題後を鑑す

榎原製

二張一類の文を付めて三瓶と物を鑑し、三島  
言花結時つとて、總て即十日送り、岸侍平  
より来出、よふ三瓶と小品を陳列す、さ碓子  
張の小桐を贈り、五時保陰協会と池田新一の  
近悼人より、信原より、西村徳大より、郵者  
より、あす、あの木定物の封三振り、希有並  
八井護士と以つて、信長就と是す、宛未由

十二日

雨、重松夫人書しの書と振り、希有(二件)



こつき竹村良友と電話を交り、内田七郎流二問す、久松義行等由因歩致、  
二面をともあり、龍泉を著す、  
打山秋浦年、  
法、古版湯、  
鶏肋龍泉別集二冊の張二成り、  
日清印刷合社、  
二二一六、  
靴志、  
き余の訓示、  
漢後の書記と校す、  
三紙と購ひ、  
小島、  
棚別達、  
若干の小品を此棚に移す、

十三日

日

時、朝来及故を整理し、法二紙に収め、法つけ未

榎原製

此成り、  
故来、  
法二紙、  
支店と物を、  
購ひ、  
非、  
あ、  
午、  
満、  
し、  
文、  
行、  
巾、  
を、  
法、  
の、  
を、  
太、  
四、  
紙、  
の、  
韓、  
水、  
子、  
の、  
吳、  
を、  
統、  
稿、  
本、  
十、  
一、  
冊、  
を、  
購、  
ひ、  
價、  
ち、  
二、  
十、  
円、  
也、  
由、  
二、  
十、  
円、  
拂、  
四、  
時、  
信、  
通、  
流、  
に、  
移、  
け、  
る、  
ち、  
木、  
堂、  
の、  
法、  
の、  
法、  
の、  
式、  
と、  
臨、  
み、  
朝、  
子、  
の、  
山、  
崎、  
等、  
衆、  
し、  
も、  
未、  
出、  
法、  
の、  
を、  
著、  
す、  
小、  
林、  
行、  
男、  
海、  
外、  
の、  
法、  
二、  
冊、  
法、  
の、  
出、  
状、  
を、

十四日

時、  
冷、  
法、  
の、  
と、  
日、  
し、  
朝、  
来、  
法、  
の、  
を、  
著、  
す、  
法、  
の、



重栢、見島金五十四部送す、下婢、美家  
（五十四部送す、理、武田居去  
出、収、部、所、中、幸、つ、き、ま、法、高、由、る、乱、来、り  
荒、木、宮、こ、の、由、や、正、木、と、限、外、状、を、思、ふ、旅  
中、美、の、里、や、久、に、成、一、折、と、来、り、三、時、さ、く、く、と  
散、葉、光、の、為、め、り、物、を、繕、ひ、田、原、居、に、留、り、と  
ゆ、つ、る、夜、来、り

十五日

雨、二三日来、蓬、庵、旅、我、り、及、故、紙、を、検、出、し

榛原製

て、百、五、十、枚、を、得、法、込、紙、と、貼、附、し、前、の、心  
り、の、もの、と、四、冊、を、考、す、一、冊、し、と、鶏、助、雜、書、不  
別、集、と、云、ふ、卷、四、の、新、緑、雨、を、帯、と、執、政  
を、加、ふ、西、村、と、嘯、と、入、り、山、陽、の、遺、三、回、山  
陽、自、刻、の、詩、杖、と、花、雪、の、二、運、面、に、題、す、及  
上、山、形、多、く、江、射、を、施、す、勝、石、と、五、代、松、栗  
林、年、一、二、簡、す、龜、山、書、一、三、巻、ふ、午、後、旅、中  
と、筆、す、五、時、さ、り、帯、名、ホ、三、ん、と、紙、き、三、島、良  
為、流、婿、投、霞、の、合、と、踏、む、早、大、目、出、飯  
多、流、宮、本、韓、元、子、翠、毛、鏡、を、借、り、多、く、行



本と對照、雜紙と校勘記を必す。

十二日

時、雑紙を著す。韓非子、翼毛、純治字本より  
跋文を寫し、七行本の終りに付す。木村、陽美  
村、未接、訪下、長代、松、未、訪、物、を、終、る、  
西村より、嘯、さん、り、山、陽、邊、出、三、交、付、午、後  
俗、寫、漢、文、起、き、来、り、神、樂、改、二、教、采、物、と  
終、り、し、ゆ、る、

榎原製

十七日

時、雜紙、雜紙を著す。三馬、良、花、も、  
別、り、川、城、の、山、岸、伝、平、も、未、出、外、二、三、の、能  
信、に、接、す、毫、山、素、三、山、陽、の、撰、物、歌、の、名、物  
と、高、く、示、す、刻、本、の、語、と、大、の、異、り、る、と  
以、つ、て、考、し、お、く、十、二、時、先、を、付、し、散、策、漢  
書、に、依、り、七、陽、田、分、園、を、訪、り、し、ゆ、る、新、保、勘  
解、人、の、外、刊、す、

十八日



晴、二三子の為め、押見時を費す、武田尾吉  
出政郎の案件につき、米松、二三雅信に頼す  
故本妻流馬、出物と申す、江戸、栗林羊  
一母、米松、午後文行をとり、訪山、偈、大  
概如電、今す、あ時、旋活し、ぬ、休、花切  
一、現研、米松、し、バーと贈り、米、

十九日

晴、花松を筆す、山中推し、米松、子、佳  
人、出、游、招、呼、に、飯、一、教、業、し、七、内、さ、旋、方、を

榛原製

後、又、時、と、移、り、久、保、田、男、二、あり、大、改、成、新、書  
一、米松、書、物、表、紙、中、に、枚、購、い、入、り、山、中、尾  
の、日、本、家、庭、大、の、科、事、業、完、成、の、き、寄、贈、を  
受、く、

二十日

日

晴、市、電、從、業、員、法、罷、業、を、始、め、成、部、書、  
一、米松、比、布、を、受、り、米、の、雅、信、を、業、す、  
大、石、現、田、尾、吉、梅、野、人、劉、應、泰、に、揮、毫、を、其、  
外、文、中、文、堆、集、を、讀、み、午、後、由、子、と、其、











元藏道次支中川正左、米田忠業の互國を祝  
く、海軍模倣少佐の川路俊徳獨逸へ電  
業、就て詔す、中座して上野公園に赴き  
漢会館より主館の花寶展覧會をらん、  
不孝守一古川二郎、東武、御舞の出産に  
贈らる、夕刻とも雨

二十五日

晴風、朝来強風を兼す、山田佳心様より長崎中  
野町登美夫、坂上弘花、月波、電車、徳澤業

榎原製

解決す、十一時日本橋病室に物を贈りて歸り、  
午後四時穂積方を吊問し花を贈り、四時駿河  
甚目寺に赴き、同寺後編合の幹部を、臨み  
大倉の演業を協議す、早大、同寺、飯ら、和華  
也、目録、歴史と部と贈り来り

二十一日

晴、山村耕花、米田、南重、大時、給の馬鞍を  
示す、遊、其の初、他、代、付、す、三木武夫、友  
功、カ、ビヤ、二、鐘、を、贈、り、来、る、北川、編、真、下、よ



リ来書、多岐中後娘母の告お式：臨む。  
二時河内町に列し、四時には油を、而も、並木  
光大、神代程高、と来簡

廿七日

日

昨朝未旋程と著す、日本石油心此と記あるを  
録収、九時に出遊上野の表裏、辰を拜ひ、尺の  
文行書、之、交、之、十、日、動、重、の、ゆ、入、を、東、美、  
伊、東、部、の、書、林、長、三、郎、と、利、り、程、彦、の  
首、好、二、冊、を、贈、り、之、に、お、か、り、と、書、す、と、す、

榎原製

時と移す、早大教授武佐由太郎の卦列。

二十八日

昨、電、山、本、三、に、は、牧、帳、代、五、十、四、液、す、高、橋  
義彦、と、は、は、お、史、蹟、天、代、紀、念、物、神、書、板  
先、方、と、贈、り、来、り、日、時、即、刷、札、は、山、本、次、郎  
と、し、馬、相、好、の、産、物、を、贈、り、八、時、に、は、  
春、四、中、来、り、お、供、う、と、車、東、野、に、利、り、高、橋  
伯、舟、柳、原、義、光、花、井、坂、平、前、島、瑞、を、侍  
合、り、也、大、橋、行、方、の、金、條、の、お、花、に、お、り、



と九の二十分の電車に乗るとある。這子  
のこの頃の自動車に移り、十一時前皇居  
へ着く。久留垣太、深田和氏、津村重吉(貴  
族院議員)も来る。今更、支那の東京内を列在  
地内の山を改海と眼前の景色を玩ぶ。余は  
宗家の別荘に坐す。こゝに心面を在り  
二萬坪の広さ大なる庭を築き牡丹  
也。園中多く牡丹を植へ今花の生え  
平時一日せ表テンプラの邸を又の級  
後祿名寺を訪ひ、赤杉染の圖書を

眼和塾を見ら。此寺は神奈川おと協力  
大橋五葉田に資を措て竣工し、今更  
とも好い。故抛と未比開校塾に在り  
と云ふ。余往年宗家の先代在廿中、一更に  
此地に来りしことあるも、再後来らず。今ハ  
道路頻りに開け、無時此にあり。三時別  
を告げ、横濱まで自動車と改り、横濱  
より電車に移り、四時半に在り。不在中  
以上弘野田村に在り。今更、物を貯る  
夜未雨、随筆(海名)を讀む。







五月

一日

曇、山の清尾村山始、申来流、十時近、かく  
源、震あり、軟鴨尾の幅、匣、起、畠村山  
の囀、應ず、過、華、馬、海、舟、を、渡、す、城、後、旗、の  
、物、を、贈、る、目、次、地、を、勘、子、文、能、給、て、う、さ  
利、来、午、後、亦、源、震、あり、海、霧、後、出、

二日

而、武田、尾、吉、本、間、菜、大、寺、林、葵、未、天、交、り

榎原製

来、接、旅、記、を、筆、し、七、時、を、移、す、三、山、良、形、を、  
来、出、関、大、寺、其、坊、物、を、贈、る、宇、都、寺、其、坊、  
よ、し、蜀、を、贈、り、来、り、其、原、所、長、信、を、送、り、来、り、  
リ、榎、原、親、重、を、送、り、来、り、其、寺、を、言、ふ、古、寺、の、あ、ま、り、  
我、到、り、(一、月、十、三、日) 里、正、清、心、氏、家、福、曹、  
ら、来、書、の、大、佛、次、の、の、説、を、後、に、

三日

而、奴、り、情、時、及、上、必、危、を、り、注、射、を、施、す、十、的、  
出、遊、日、本、橋、に、物、を、贈、り、白、木、庵、に、親、物、を、



燔あり杉井郡況、巻す、文の巻に圓方を將  
ふと仰く、不在中、谷村一太の外訪、台法  
重松健二と未出、旅の暇を筆す、文の巻  
に此の如く入。

四日

晴、雨のち神守七三島良花と郵送、小川信太  
郎又此處に森脇美樹素流、之の場合、刊  
行の配本、中、欽法と佛子の供物、刊  
午後閑、乘して所供給、右枚許、返り、送、信

棗原製

人以外出、津田の巻、二三日の圓方を將、  
細川二十田山本二十六田五十七、其、神、

五日

雨、朝未、能、能、を筆す、関大、り、求、訪、  
載す、心、余、の、田、願、後、を、交、付、外、の、法、成、底、史、  
料、字、三、一、画、を、貸、付、奉、宗、有、と、相、を、賜、未、  
二、是、四、火、出、大、く、四、十、八、田、納、付、了、紙、後、旅、  
中、味、略、并、切、ん、を、更、り、未、了、山、武、  
夫、才、本、橋、石、坂、一、を、身、志、(一、五、八、中、好)、大、江、に、



疾の来りて、僕等と出遊白木分の創立二万七十年  
祭を免り、夜に今立川とて依家次郎の河邊  
野菜を採り

六日

初朝来宿屋を兼り、重福健二、新公を兼り、  
百宗を柳録会史と漢文時を移す、五時  
帝の園方殿に於て本志二に相見え、池の端の  
旗亭で世界に飲む林葵未久も其の

榎原製

七日

晴、比内美化園古跡堀のすれ連の油傳二  
件二つを兼り、石段一未訪中、成宗に送る、  
十一時先を伴ひて出遊、是れ持の物に飲す、之の  
書と訪りて一二の園を踏み、十日挿入、出遊  
却りて山利也を配本く来る、秦の家前、  
ノ権筆一函、刺来、旗本を兼り、並木  
光と兼り

八日



明、林癸未大、の「曆の文化史観」を讀む。平大教授  
中田浩の計に、梅子、京都便利書影本刊行  
会として第一回配本、成徳本古謡集一巻を交  
へ、十時帝園圖書館、刑合の圖書校勘會の  
理事會令に歸ち、午後同評議會令に歸ち大  
令に提出の提案を議す、必刻評議會と共、  
池之端界松園(反那料理)を觀覽會をひら  
く石坂一とて来也。

九日

榎原義

明、朝未旅行を著す、形原所長依島進策  
に關す、多々を圖書校勘會大令と開く初  
日、るる名の函印刷令、地重後令の時、る  
差令出、度、見、七、十、時、令、地、行、く、寺、嶋  
元重とて、物を寄せ、ある、京都田中、信、三、の、  
瀧、美、村、山、祐、し、の、と、来、也、出、版、部、に、刊、す、  
を、寄、す、海、邊、來、と、し、藤、井、三、七、ん、ま、い、  
を、寄、の、七、の、ある、夜、來、又、雨、京、東、地、方、裁、判、所、  
換、書、の、向、と、し、馬、法、達、及、この、と、同、刊、金、十、四、納、付、  
ス、へ、し、と、同、端、書、う、ん、申、來、の、何、の、達、及、る、也。







飲し七切書、度方を免く、依家孫又、原、  
利、二、希、の、傳、の、つ、き、世、村、と、電、候、と、交、り

十二日

雨、二、三、雜、信、を、寄、す、海、部、求、石、塚、喜、一、ら、  
來、訪、朱、子、の、出、院、を、示、す、改、上、の、形、事、  
例、の、注、射、と、受、く、雜、信、を、著、す、三、菱、の、  
増、抵、南、と、し、て、口、法、機、の、差、入、り、大、佛、次、中、  
の、カ、説、か、ら、す、但、を、後、に、冬、初、上、の、形、事、の、軒、  
に、赴、き、和、井、郡、沈、二、の、力、事、夫、結、婚、の、折、

榎原製

露、の、安、に、候、又、一、場、の、祝、儀、を、述、ぶ

十三日

晴、武、田、信、吉、森、脇、美、拵、飯、田、早、苗、文、に、耳、  
通、午、後、散、策、文、の、也、を、始、り、二、十、四、勘、定、の、  
淺、草、口、に、持、廻、金、を、お、し、先、由、金、方、に、二、  
の、お、る、を、始、り、と、ゆ、ふ、

十四日

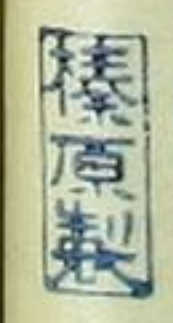
晴、龍、泉、を、著、す、昨、夜、乱、駭、事、に、一、時



後合開の、新田木桂と及野次郎と、政久と、  
傷田中徳祐と、末岡共一と、松の、田中  
徳と、銭幣殿の、あると、兵部、  
心身法、教果文の、一、一、  
と、婚の、二十日、勘定の内、入る、珠、  
三の、方を、婚と、いふ。

十五日

時、味打と、命も、株の、一、つ、き、  
り、光を、付、お、り、を、指、お、座、  
の、物、を、購



ひ酒、飯、と、いふ、  
者、向、二、百、七、  
英、雌、の、命、を、誤、ら、  
し、

十二日

時、林、癸、未、と、  
堀、田、義、と、  
刊、者、約、七、  
の、株、主、  
の、英、雄、  
と、誤、ら、  
し、



市作物等の後、其旨をアバムを賜う来り。田  
中道に掘え、白年其集の録、智中改列  
を乞ひ、大改の森あり、とて、つ若布一を  
贈り、其紙を重下し、又刻に列、早大を  
決り、亦者を郵送し、来り、信紙印一と、尾し  
道産納の演焼所来り。

十七日

昨、新麦田の畜産泥を、果物を賜う、二三の  
回者を出し、示す、台湾を極あり、未、尚、信紙

榎原製

印一、森、如、夫、泥、枕、と、か、か、夫、附、加、税、電、話、料、  
外、道、料、納、付、新、紙、を、兼、す、午、後、教、養、不  
忍、辨、天、の、境、内、二、入、口、天、福、寺、改、築、中、池、内  
ニ、八、形、の、道、い、つ、の、方、か、出、来、れ、り、あ、り、の、民、改  
あり、先、年、博、覧、会、の、展、覧、は、然、り、と、す、標、ハ、今  
有、し、文、行、電、三、五、之、等、り、世、替、あ、ら、を、辨、ふ、  
ゆ、り、金、十、回、文、行、電、三、辨、ふ、

十八日

日

時、朝、来、旅、費、を、兼、す、石、坂、隈、一、等、と、来、り



京都の旅館に大文を乞ふ人出京物を贈ら  
る。唯辨記、赤市、時勢を乞ふ。未だ、光を付  
ふ。乙敷、米、沈香の観音を乞ふ。浅公、色  
長谷川、雪、旦の遺物を贈ふ。午後、和樂  
の映画を見て愉しむ。杉井郡沈香を物と贈ら  
る。

十九日

晴、光公、稱立川の作、石、万、行く、大工を祀る  
押入の鼠の穴を修む。武田尾を来、梅

藤原製

杉井郡沈香を来す。天竺香、緑香を来す。秋部  
全権、向ふ。志川、英沈の貝殻一平、後、羊角を漢  
文、夜、耳、雨

二十日

向田代、亮、外、株、洋、酒、を、付、あ、り、来、り、余、の  
寄、り、を、数、枚、掲、り、株、洋、酒、余、が、世、縁、を、乞、ふ  
人、為、也、未、だ、余、が、漫、筆、を、其、子、が、長、深、靴  
男、来、訪、其、著、百、梅、花、詩、二、冊、綿、人、絶、句  
梗、洋、紀、程、各、一、冊、を、贈、ら、る、午、後、早、大







二十三日

町、植木を三人集り、高尾三印に押書紙  
交付、十時出政部、幹部会に臨む午時を  
後今と云く、山在り山村耕花、午時、是  
湾の批地、外果物を終る、旅宿を暮す  
是一時四十分激震あり、文の巻を来

二十四日

町山村耕花、海をとり、鹿兒島  
宇尾、海に五列、改上、花を来、注材を

榎原製

施す、是は海を相好く、来向、旅宿を  
す、改上とし、釜湯の押書紙を托する。午後  
善族会、線に到り、又の場、今の例、今、臨む、  
芦田均、土、其、手、持、と、改上、其、村、中、  
は、塩、麩、を、来、り、来、り、車、善、專、朝、鮮、協、会、  
台、来、海、清、淨、心、院、と、い、ふ、も、古、く、海、を、  
若、り、

二十五日

由、朝来、旅、宿、を、来、り、来、り、台、湾、静、と、い、う、種、々の、あ



とけり未だ畑ニ芋を植へり。又庭の邊の大掃除を  
し。午後文の巻と功を二三の団をゆてゆ  
る。

二十一日

晴。朝未だ寝を棄す。武田尾を去り、春  
愁を記し、抱一書筒一卷成り。山村耕花  
未だ、殆くしつゝ、信を家花の阿茶、他人物  
と時給の馬鞍を割る。余をうらやみ、地倉  
に念植に揮毫を託す。昆田末と人、夏海新

榎原製

夏海の寄る。果物を貯り、午後出遊。口を  
栲毛の重。骨董四五を貯りてゆき。

二十七日

晴。山田清化より、腹巻合を託す。武田尾を去  
り、夏海。三万五千円の内、子に交付。文行書を  
ゆて、表干の団を貯り、此の河田に念植  
大南、軍艦に擬し、山車或中甚むと都  
大臥、曳き出さる。市中賑ふ。関大印  
~~~~~  
又五の忠。~~~~~











A blank ledger page with a blue border and 12 vertical columns. A small blue tab is visible on the left edge.

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

A blank ledger page with a blue border and 12 vertical columns. A small blue tab is visible on the right edge.

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

製

榎原製







閱覽室

二十

棗原製



